

大学教育においてもデジタル化は利便性と選択肢の多様性をもたらしますが、統一的な運用がなされなければ、学生さんにとってかえって負担が増えるということにもなりかねません。こうした負担の影響が出やすいのが発達障害を抱えた学生さんたちです。しかし、彼らだけの問題でもありません。学生の立場に立った教育環境の整備が求められるでしょう。

どこに提出したらいいのか・・・

コロナ禍は結果的にはオンライン授業を始めとした教育媒体の多様化をもたらしました。これにより、多様な学び方が可能になったことは喜ばしいことです。

しかしながら、現在、本学では複数のシステムが同時に運用されています。そして、授業によってその運用方法が違います。この授業は、講義は Teams、課題はサポータルとか。あの授業は先生への質問はメールのみで、Teams のチャットでは返事が来ないとか。課題の提出方法が授業によりまちまちで、提出完了の確認もできたりできなかったり・・・その結果、ちゃんと課題が受理されたか気を揉んだり、先生に確認しようとして連絡方法を探すのにさらに時間を取られたりといったことも・・・。



みんなに関係のあること

スケジュール管理が困難な発達障害を持つ学生にとって、授業ごとに提出方法やコミュニケーション方法が異なるとあっという間に頭がパンクしてしまいます。システム上の問題のあおりを最初に受けるのが、こうしたマイノリティの方たちだということです。

しかし、他の学生にとっても関係ない話ではないかもしれません。たとえば、授業ごとに異なるシステムを使い分けることにそこまでの困難は感じないにしても、そこに労力を割くことは大学教育の本質的要素でしょうか。もし、その労力を授業で習うべき本質的要素の習得に振り向けられるなら、その方が大学教育の本分を果たすことになるのではないのでしょうか。学生の立場に立った教育環境の整備は、結果的には大学教育全体の質の向上につながるのかもしれない。

